

地經和別番書

下

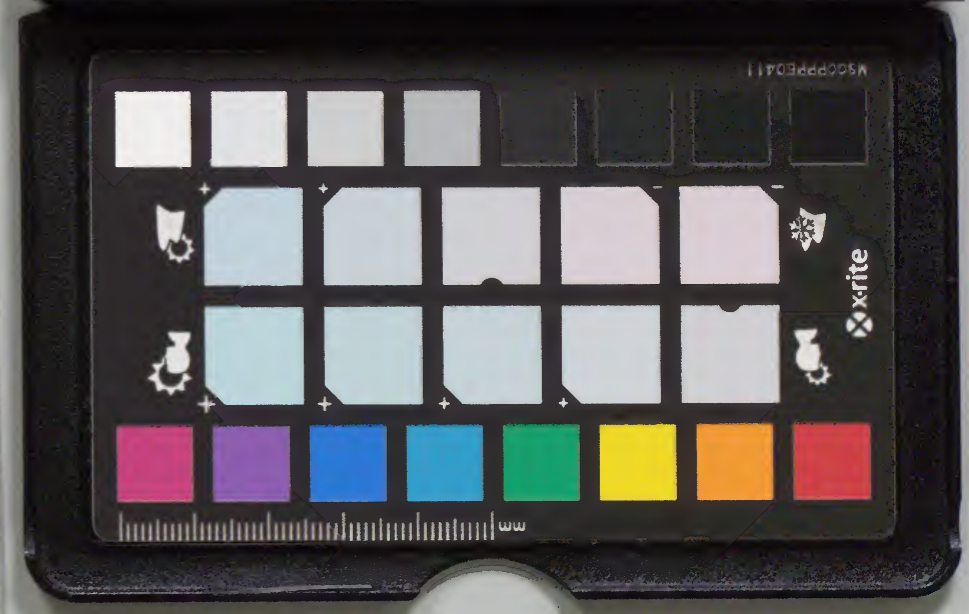
和書門

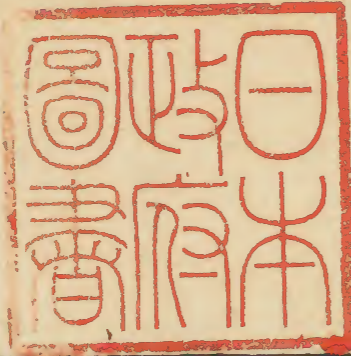
和書門			
一八〇九	一八〇九	一八〇九	一八〇九
函	函	函	函
架	架	架	架
冊	冊	冊	冊

內閣文庫			
九三	一八〇九	和	書
函	函	函	函
架	架	架	架
冊	冊	冊	冊

神道釋門

內閣文庫			
番號	和	18109	
冊數	3 (3)		
函號	193	131	





延命地藏經和訓圖會卷之下

淺草文庫
逢室有常編註

如天吐唾向風投灰還坌其身

此段ハ前文と受く喻とありて説くはなり四上章經ハ佛の
の爲りて悪人の賢者と害すと猶天ハ仰て唾とてハ天
ふいふば還て己ふちてハ逆風ハ向て塵と颺ばら彼
ふいふば還て己が身とけづけハ賢とばとてハ
是もまゝ斯の如く今地藏
并ふ帰依する者と害せんとせば還て其身とてハ即ち此

也哉經口訓卷下

經文不明なるに註すふ及びも這ふ美驗のつとありて此物
詔まらば頃の中古ありて京北野辺に住む老尼あり年若くして
早く夫ふわね独身となり貞節をたてしむるに今年
はゆりて頂の雪となり額より彼とたぐ何妻もたぬがらとあり
まゝ難望一人の娘とて俱小閑居の身となりて實や
人の親の子母の中ふゆきまを娘のゆ未納りとあはれん苦く
ありてまゝ壬生の地藏井へ立願一日毎ふま宿し御禰子の
際ふとより我等娘生付ゆり見悪もなり其上年ももや
十六の春秋も送りのまどいまど定まる夫ともぬ只つと
ふはあ人の小家小住居と花のまらりと人あはれむらうとあり

ふびんをたてふ井の御誓あより良縁と求むる人と人よ
りぞくかたを祈りて其時一人の若き法師ゆふ此妻と
まゝつとつとが廿四日御縁日おまむとて通夜をて娘の後
栄とほぐひるかたを夜もまゝとて深行まゝいよく信心なりふ
あつと有難うなるはふ本尊御厨子のあまらうとて誰のあ
汝が願納受むりあけぬ早く下向せし道めて初め
逢人へは汝が娘の夫なり栄花身ふ余りくは合なりと
つとつとまゝへまゝに尼大ふお終とてゆきまを難の御足履るあや
わのく明をまら急と下向すふ向より法師一人来りて
尼へ早く油といふ則地藏井の告の様と語り今より我

娘の夫とわたり入るとして法師大いふおぼろと我も法徒の
身かば妻帯の儀わづらひさるる夕辺地藏尊の靈夢成
つらつら汝法縁わづらひさるる還俗して妻と求め急と
結福めづべしゆめく難入るるべし申す復あつしより斯く
うらさすは今夕迎とはつてと約束してど別まら格
う尻の意ど立入り娘お斯くとも語りめら其用意
とどぞい居らるる下部兩人をよまを長持とめ入委細
の書面おめりし日も高き邊辺へ参りまらぶと長
持とめと出行く親子のうきお思ひ書付とひらるる今朝
約速の通り迎ひとまらゆと申す僧祥の身かば入

目とぞうらうら此長持お入下部とめとせうひて送らばと
右らまら尻の奥ら井の御告といわらうまらわらぬ栄花
の身とならるる浅きゆめと親子のわらわら
とらまら居らるる表より立派の侍若黨下入引つて
内ふ入少くおらまらまらり我の東国何らら
御内の者らら此度若殿上方の女と召抱とらら某仰付
らま上京らら吟味などおらまら女らら兼ら壬生地蔵井
信仰の立願ら若殿の御意お入ら女お抱とらら
祈念ら夜前の夢お井出現まらら是ら北おら
尻とらら任女お客顔美麗らら早ら行て迎へ

世成巫和訓卷下

よと告る人よつて今朝より此辺りを尋ねて見當らば然
 るに只今表より見えぬ其娘を誠ふとぞうかぬ其客儀是
 井の告る人女ふ相違なくと喜び斯くも兼知あは召抱えり
 交とわら尻の大いふはらさちち右難と仰るを志し今朝の告
 斯く又今の迎のやうを誇りなむ彼侍の昔時年と拱こち
 みこれ賣僧の仕業をより思入子細あり其おまう子づと
 有く恙堂ふ云附ぞより引来りん子牛一足とりよせ右の長
 持ふ入ると封とぬ下部の帰ると待居りたるあるお早
 暮前ふ兩人の下部より来りなむ彼長持とわく是は大夏
 物なり大切ふと云へて渡りて下部へかこもり帰る

叔も親子の始めの悲しきふ
 いとえかゝる右難と仕合
 是地藏井の御加護を
 又涙もどろろと斯く下
 部の別當の家へ歸ると彼
 長持と忍び内へ入るに
 大夏の重宝わづらりと若
 同宿一人よびあひとふ笑
 の間ふ亀り心よるべの酒
 肴とび〜灯高くかげ〜



件の長持とめきこひつ小牛の飼とをもちと待つて死
 出くとゆめづり鳴あつたらうの道具と踏ふれ行方ち
 ば走出らう法師大いふ仰天一と上ちと牛ふす息
 絶くとぬり居らうらうの音も同宿の人く走り來りて
 法師となすけらぬ是則ち人と謀の罪却く自身もぬす
 是地藏井小歸依する者と己が欲ふらうらう故入つて本人
 小災のからま又天小唾と吐風向く灰と投らうと説く
 雨時帝釋白佛言世尊何故名曰延命菩薩
 其相云何

此段の帝釈地藏井の名相とていふを説くは是帝釈世尊が
 問とてまうらうらう故めく延命菩薩と名づけ奉や其名相
 づんぞやと言ことぬり

佛告天帝善男子真善井心明圓故名如意
 輪心無罣礙故名觀自在心無生滅故名延命
 心無摧破故名地藏心無辺際故名大菩薩心
 無色相故名摩訶薩

是文の世尊地藏井の六種の名答らうとて説くは佛告天帝善

男子と云佛告うの詞なり天帝との帝釈なり切利天の主なり
天帝と稱す。善男子との世尊帝釈とてそのよく経前
の如し。真善井との地蔵とてひけり。詞なり。真の真笑
ゆて虚妄なき善に至善ゆて微惡なき上の及ふ心善と
云は是なり。心明圓との明のあきうと訓圓のまじらうとあり
夫地蔵井の心性萬徳圓滿し入るごとく譬へ満月輪のうらる所
なれば。知光の明なるその日輪の遍く照すふ似たり。如意輪との
如意との梵語ゆ。摩尼の玉とて是天の勝宝ゆと无量の宝
とゆ。其求る所満且せむ此の如如意とのあつるのどと訓
す。今此井も如意宝珠明潤圓滿ゆとめらうとねとてうとよく二

世の衆生小二世の願して成就せりありあつるの約と名と
得る。聖礙との二字もふらうと訓。十輪經ゆらう神足無
礙ゆとたとひ大虚空のどとて是なり。觀自在との自在
と觀するとの今地蔵井の有と觀して有住せば空と觀し
く空に住せばあつるも有るも空ゆと觀達自在不思後境界
とて中道實相觀といふあつるや。心無生滅等との觀經の疏ふ
曰く。あも生滅とあつて初め終とあつる者。應身の命なり。いと度
得く。あつるも初め終とあつる報身の命。寿ふあつる不
寿ふあつる初め終りもねき者の法身ののら。今地蔵井の既
ふ法身の寿命と得く。常住不變の。不延命井と号奉らうと

是不生不滅の意といふなり。心無摧破といふ摧はくらくと訓破りや
 ぶつとよむなり十輪經に持戒堅固なると妙高山のごとく精進ふ
 しく壞へがごとく金剛室のごとく安忍不動なると大地のごとく
 といふ是なり。心無色相といふも亦ふなり。白あり長あり
 短あり大なり小あり。未來あり。現在あり。過去あり。東南
 北羅上下の所の取らるる其色と求むれば其相となつてはるるこ
 空有無礙神妙不思議の大神なり。摩訶薩といふは大道心衆生
 と翻す。眞妄立たば是は心この大道心と成す。摩訶薩といふは
 一切の色相に住せば
 豈も終々の小菩薩のよと及ぶ所なりんや

汝等信受心無所別莫令忘失

是又の取段の結の詞なり。汝等信受といふ汝等者此地藏并
 の悲願なり。此經の功德と信仰受持して。稱名讀誦すべきこと
 心無所別といふ。鬼や肉と九智と心疑ひと起し。妄分別と云ふ
 こと。莫令忘失といふ。忘はくらくと訓。失はくらくと訓。九は
 のか。三の三空の功德と聞え。信は信心と云ふ。朝は露と云ふ
 しく。佛取ふ向ひといふ。佛も中。數珠とはまがさきと云ふ。入る
 とも。有るは。何と云ふ。急りから。行はるる。經と云ふ。三
 空は。三の三空の功德と云ふ。佛は。佛と云ふ。勤は。勤と云ふ。三
 空は。三の三空の功德と云ふ。佛は。佛と云ふ。勤は。勤と云ふ。三

謗或我念のむかんとて他のつとむとをなごり元より有所得の
 心より起る信心なく謗ふ未權信心とて執るもとるはむとむも
 早しとてかろ下根のあはゆる身も井とれ奉らば天の川がり
 地の壞するまありとも如來の金言虚忘なく井の誓願空しくは豈
 是と信がざる〜〜〜

爾時大地六種震動延命菩薩從地出現右
 膝曲立臂掌兼耳左膝申下手持錫杖白佛言

此段の大地震動とて延命菩薩出現〜〜〜説ふるなり。忉時大
 地六種小震動といふ震はるゝとよと動はるゝと別して大地六種小震



地藏井の六輪り錫杖
 虚空より降来るの圖

ぞうするといふなり六種といふ震
 動涌運吼撃といふとなく震動
 の相の萃嚴經大般若等小委
 一々略す。從地出現といふ井の跡
 相とあるは此經文小明かれば往
 小及び錫杖といふとた錫々
 の声とねす故に錫杖といふ名附
 一と釈氏要覽ふへ〜〜〜の
 一とて受時の煩悩と〜〜〜惡
 喪毒歎ち〜〜〜去。四股の四諦と

標一六環の六度ふかきとて委一六錫杖経ふる今地藏井の持
くふ六道能化の標幟なるを以て四股六環の錫杖なりと按ず
るふ洛陽壬生寺の縁起ふ日抑當寺の錫杖の起えたるは正
曆二年佛師定朝といふ者一カふ無二の信心とて本願快賢僧都
ハ一香三禮の渴仰とてびま一十日の満月の尊客とて成就したる
ちうとて持物の錫杖の成りて悲三空へ祈りる辰
の二天より午の刻まで本尊の前後ふ霧うり巻込り中ふ於て
異香四方ふ薫り音楽をばふ聖衆の影向とてりば午の中
分ふふ忽ちうり後産埵と拜し奉る持物の錫杖なりとも
生身のぞくあふり快賢なりびふ都鄙の見聞隨喜の

涙とかなく然快賢三七日の間一心ふ信とて彼錫杖の溢
觴と祈りて一夢の告ふやんとて御僧生身の地藏井とて入て
ひく釋迦如來法羅陀山ありて延命經と説りてこれ無數の聲
聞并諸天人雲の如く集り泰も地藏井の六輪の杖と待て大地
より涌出志ありてこれ釈迦如來秘んごらふ六道の衆生と附屬し
うたの経文ふ明白あり其時の錫杖是かりとてあつりふとあり誠
ふ不思議の靈驗なり

我毎日晨朝入諸定入諸地獄令離苦無佛世
度衆生今世後世能引導

北条朝長

此段の地獄并毎日地獄小至り罪人の苦と救ひうると説くこと
 毎日晨朝と申す如く此意と或子内親王のよめ
 新古今
 誠小歌のよめ哀まふまへに美ふも妬きも女の身やせ
 浅まらぬ物ありは彼白氏文集やも云々人生ごと婦人の身と成
 事なりは百年の苦楽他人よりと告まへ幼とれ父母よま
 ひ長かりて夫ふまへに老く子ふまへにぬくは受戒作善の
 信願もしあへ心の度ふらぶれば念佛禮讃のて多し口の内
 ふ含めり是志ありて女の身や世とて長閑ふ日成
 むらうふらうや蘭麝と薫らせ脂粉さう寵とめし愛と

引彼とゆきみ是と迷つは其つらう愛執の涙のこわり紅
 蓮の氷となり瞋恚のやむいれそ焦熱の焰とぬる人衆
 或部いらる地獄の多げるとんくともあう教
 海まゝや波の枝にたもむまごいづねのりるこのあそ
 とあり何とゆき是と遁んや然るふ今地藏井とひく小頼
 こもまごいづね諸の地獄ふ入る苦と難きあんと御誓ひ
 もしれくくくくく入諸地獄とい八寒八熱二百三十六地獄乃至
 八万四千の萬子地獄等といく地獄とい梵語より那落迦とい
 此の地獄と詭ど二百卅六地獄をほらの中ふすまひなる故に地獄
 と云ぬらうは地獄の二字とはらのひとやと訓せり又の黄泉と

り黄の土の異名なり故に無
 佛世界といふ佛の滅後と約す
 たり弥勒菩薩の誓願あり今
 より六六億七千万歳の後前
 佛の滅して後佛出世の時よ
 出づ再び佛法と龍華樹を
 下や三會と説くなり是弥勒
 勤佛三會の曉と待りよと入り
 釋尊の涅槃入りより弥勒
 佛の出世のときまでの中間と無



佛世界といふなり

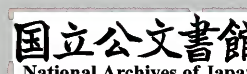
若佛滅後一切男女欲得我福不問日凶不論
 不淨孝養父母奉事師長言色常和不狂人
 民不斷生命不犯邪淫

此段の父母への孝養等とすらるる地蔵井の御詞よと前文の
 續なり。若佛滅後一切男女と世尊の御入滅後の皆の男女
 とのとなり。我福と得と欲は日の凶と問ずと是世諦門に約
 する時の日の善悪と相いかに今井の第一義門に約す

也哉經如川卷下

ハズんと強ふ吉日良辰と論げんや 取謂江南のなら花是と江
北ふろせの沢とぬたとい悪日おも井の御名ととぬへん轉
く吉吉祥日とぬぐいんや 不論不浄とい智恵門よりい
浴浄衣等とすまじし今慈悲門より 豈依正の不浄と論げんや
警ハ梅檀の薫の伊蘭のさるも変ずる也此経と讀誦せ
心の煩の人身の不浄するもの所より残らんや 孝養父母とい夫孝の
百行魁衆善のものとぬし故に儒佛といふ是とすむ子路の百里の
外より米を肩より親を養ひ関子騫の三冬を寒くふ蘆を衣て猶
母の悪といは是即ち人倫の斯のまなき取より天地と感む
也んたり 梵網経より孝と号く戒より心地觀經より四恩と説

ろふ父母の恩と第一とぬし 世尊の御母摩耶夫人の恩と報
せんぐらふ安居の御法と説りい又御父浄梵大王崩御の時
く金棺とすびりいはいは是皆世の人として父母の恩のふりて
と知りめんがふと 奉養師長といは是師匠のいへ我より年長
る人又の徳より人々と輕むるは夫物の善悪とこれに入智恵
と生ずるは皆師匠の厚恩なり 身命とすまば慢心と生ぜぬ
ぬし観音の師孝のとも宝冠ふ弥陀といはれ入り。言色常和とい
春風のものふらうが如し人の言葉からと柔和あて心の慈悲
と忘るわらふすとと清や納言のいんさう所はれりの形もげ
ふあをわき人ととるんも後然草の志を戒了と生すとつため



心とちどろかりんんれようつとちきふうつとびんごうとんて兼好がかけ
し實とるつとちとつ只よく勤むべきものとぬり

白きるりりるのすびとさむなりみらむ雲が紅のたま

不狂人民との慈悲心ふ住と理りのすふ行ア然るふ一旦怒ふ

より或ハ己が宿意ふよう非道と行財宝とくすなり貝負のさ

或ハ法と非法ととれ非法と法と説善と悪とわととんて誑惑

と成ぶと断生命とのける命となとる殺生ハりるくの罪の

中よつとて重しハいんとぬまび一切のたつとも命ふまもて夏めけ

とびたり井戒又ハ五戒十善等とも殺生戒とららとち揚室ハ葶と

放りく白環と得流水魚と助けく宝と感ず善悪の果報のられ

がう慎つことぬるがや不犯邪婬との他の妻と狂すと邪婬
とハたと自妻とるも非時非道非処等と狂すと邪婬とい
と云り本願經ハ邪婬ののハ雀鵠ハ鷲鷲の報と受と説ふ人
按ずハ此本文暗ハ四重禁と説ふハ言色常和と人民と
枉意通して偷盜妄語の二戒と令び不断生命との殺
生戒かり不犯邪婬ハの邪婬戒かりつとち父母ハ孝養
師長ハ敬入五戒と守ハ入倫の定法かり佛門の通軌かり
故ハ菩薩是とといハ其本と知ハむらかり

若十齋日若六齋日若十八日若二十四日但自心

正轉讀此經称我名者

此段ハ地獄并十齋日等と教ふと説くも或人問曰乘の
 段ハ日の凶と云ふと云ふハ別して齋日と云ふは是相透す
 うふめびや答てり菩薩の大悲老婆心切なることらふ於
 てとぞしつんとて六夫九夫のなほ懶惰放逸ふ流やす
 日の凶と問バ不淨と論じばとらふとせと恐るる天時と破り
 鬼神とかりぬ五辛酒肉とわらひまわし長時不淨と行
 びて持戒清淨の人とて地獄の業と作らんと慮り
 らしむ別時の意趣とらむ例日淨土門ふ尋常と別

時との式法ありと十齋日とい 一日 八日 十 十四 廿日 廿三日 是本願
 經十王經等ふ出る此日の五道の眞官罪の輕重と定めらる日

なり故ハ此日齋戒精進一或誦經作善等と勤じべ一齋とて
 とのふぬ其心と調へ專小すと入り六齋日とい 八日 十四日 十五日
 廿三日 廿九日 晦日

智度論より此日惡鬼人の命と奪んと六齋精進經より
 くの善男子善女人とて六齋の法と終へ布施と行ひ天難

惡難其身ふ及び諸願成就一後世ハ六十種の功德と得又六齋の
 法と修する人のいふれの上ハ常ハ佛がらの去らばと守護し

と六齋の因縁ハ天地本起經より若十八日考とい亮然の日
 十齋日上根の人とて六齋日の中根の人十八日廿四日下根ふりて

ちりちり入るとして自ら正しく此日の日ごりの心とありあかみ或は五
 戒八斎戒とたれづ八斎戒のと佛説齋戒なむびふ八斎
 戒の作法ふらう。轉讀と轉の回轉の心なう一遍よこめると
 と本願經の常ふ一遍と轉すとつて是かう今大般若轉讀とふ
 時へちめと畢と數行よむといひぬらむ是は其義ふらう
 此段の菩薩の依するのの業報と轉じて無間の罪とまらうら

**我以法眼威神力故即轉業報令得現果除無
 間罪當得菩提**

此段の菩薩の依するのの業報と轉じて無間の罪とまらうら
 ちりちり入るとして自ら正しく此日の日ごりの心とありあかみ或は五



かくて法眼と五眼の二つあ
 大衆義章ふらう 法眼と
 と以号けく法眼といふ威
 神力といふ妙用無方神といふ威
 勢といふと力といふ地藏井此
 誦經持名の行者とことあり
 うい威勢神変不思議力といふ
 悪業の報と轉滅して現在の善
 果といふとちりちり無間とい
 うといふ八大地獄の極地ありて五

逆罪人の依列なり頭と逆し身と落ると二十年極火鉄網の中
無量の責と受無間といひしと訓又の文なりと訓成實
論小五無間と釈して曰一の趣果無間曰極悪人を故息絶すと
中有と逆すと即時小墮在す果小趣ひは此故小無間と稱す二
の苦無間苦と受ふひしは此故小無間と稱す三の時無間
とて一切が故小号して無間と稱す四の命無間と命根と
ざる故小無間と稱す五小形無間此地獄縦横八万由旬入も遍と多
人もまこみつら故小とつ然る小地蔵井の大悲願ふとわくか
る大地獄の苦もものつてかはく菩提と得りあうると愛
小賀能とらる者或といへ春山横川の般若谷と過のたつと雨小

逢くあふ一の破字のほじが立よりこふ地蔵の形像雨と濫
させうひと自う着る破釜とぬのぐとせとまら其後
小病とらけく気絶とる平生とる善変もぬく動もけん悪
業多し便地獄小墮極火身と焼其らみ云とる其時一人
の比五ありと右のちと以て賀能と提く鐵釜のうらよりげ
う右の顔眉足及び臂皆焦ると其と比五やうふ我ハ日
本叡山の般若谷あつと地蔵なり我雨湿忍べうと汝ツの
釜とぬく我と蒙ふ其志酬とて故小我火聚ふ入と汝とす
我焼と変も顧破釜の志とむつと夢のさめるとて獲生
とる後般若谷小詣と御像と見ると不思議や地蔵井の形像

燒やきくまくまりり是これ地獄じごくみみ見みままりり如ごとくくとと元享げんきやう教書けうしょり
ききららりり是これはは破やぶ釜かまときときせせらら因縁いんげんふふりり地獄じごくのの苦くるをを救すく
いいりりいいんんやや常じよう小信心せうしんじん稱名しょうめい禮拜らいはい供養くよう讚嘆さんたんせんせんののり
其その驗けん多たしし故ゆゑ此こゝ井いづとと尊敬そんけいせんせんんんごごりりぶぶららんん

我われ從より過へ去り無な量りやう却かへ來り見み諸しよ六道りくたう一いつ切きつ衆生しゆじやう法性ぽうじやう同どう
體たい無な始し無な終しゆう無な異い無な別べつ無な明めい異い相さう生じやう任にん異い滅めつ

此段このくだのの地藏ぢぢやう井いづ衆生しゆじやうのの迷まよひひのの元もととと示しししりりのの度たとと説とくししるるににけけりり
我われとと并ならのの自みづか稱かなりなり後過のちのへり去り無な量りやう却かへ來り過へ去りのの義ぎはは三さん世ぜののううちち
少すくてて取とりり註しゆすすははににああるるふふ四種ししゆのの一いつのの別べつ却かへ二にのの成なり却かへ三さんのの成なり

壞やぶ却かへ四よのの大だい却かへなりなりととひひろろくく釈しやくすす今いまのの至し要やうふふああるるににけけりり
ひひららばば芥子かゐし却かへ磐石ばんせき却かへととよよ美みありあり芥子かゐし却かへととよよ一いつ由旬ゆじゆんのの城じやうの中ちゆう
ふふ芥子かゐしとと納のり満まんくく百ひやく年ねんふふ一粒いちりやくづづ取とりり是これととりりははくくとと二に却かへとと
つつはは是これのの小せう却かへののつつりりんん中ちゆう却かへ小せう却かへ大だい却かへととててははくくとと累るい々々かかてて知しるる
磐石ばんせき却かへととよよ一いつのの大だい石せきととよよ四し方ぽうなるなるとと天てん人にん百ひやく年ねんふふ一いつ
粒りやくづづららるるてて羅穀らこくのの衣えととりりくく石せきととかかどどははくくふふ却かへななととままいい
ららばばととりりああるるふふ無な量りやう却かへととよよのの元もととと知しるるふふ一いつ。見み諸しよ六りく
道たう一いつ切きつ衆生しゆじやうとといい前まへにに註しゆすすとと見み合あへへ。法性ぽうじやう同どう體たいとといい所しよ謂い一いつ切きつ衆しゆ
生じやう唯一いつのの佛ぶつ性じやうややとといいのの本ほん躰たいとと同どうぢぢりり元げんよりより不ふ生じやうなりなりのの初しよめめ
ななくくいいふふとと不ふ滅めつなりなりとといい終しゆうりりももななくく。始し終しゆう常じやう住じゆややとと更さらふふ變へん異い

せび生佛一如り豈差別ありや無明の煩のみをりくはるく
十界の衆生とぬる是と異相と号とよ意の種々の色相とぬるべ
かり覚る心とて乱生滅の相とるる一念とるふ生ずり
と生とらぐけとの念とるく相續すると任と名づく又衰して餘
み縁すのと異と名づくとたふ止と滅とよ滅すべ又生と生ずるべ
又滅す譬へば車輪のどく吁生死の流轉つる期なく是有情の
あつふらば山河大地又草木叢林ふつるまで此四相のるふら
たらずとよ衰ぬ

是得是失起不善念造諸惡業輪廻六趣

是は最の支の續なり。是得是失他人の善惡と論ト又自身
の得失と暗してつとひとと妄相の取捨すふよく不善
の煩悩とては是貪瞋痴等の三毒の煩悩の本と造諸惡業
とは是五逆十惡等と造ると諸の惡業とよなり輪廻とて車の
輪のちごご如く或は上り或は下り三善道ふのり又は三惡道と
まづいふたと人又はあげら太の柱とまづる小似たり。段々繩短くあり
我首とまむらうふ惡業と造ると六趣ふ輪廻とて終ふ無間
ふ隨すべとかり豈慎むべんや

生々父母世々兄弟悉成佛道後我成佛若殘

一人我不成佛

此段ハ井生々の父母世々の兄
 弟ととづく成佛とせんと
 誓ふと説く生々父母と
 と一切衆生と云は梵網經一
 切の男子ハ我父一切の女人ハ
 是我母なり我生々是依て
 生と受すといふ故に六
 道の衆生の皆が父母と云り



惠遠
 鶴とて
 菩提心と
 起すの
 骨

然ま六道の一切衆生と佛道と喜提の道小證りめ衆
 果とてて後我も佛かなるべし若も一人でも残ら我佛ハ
 いかゞばこの人なり成佛道とい喜提心と證すとして前小喜
 提心のこと註すといふも爰唐土盧山の惠遠法師ハ陸修淵
 明の二人訪りて虎溪の橋小禁足と忌みて大笑ゆこと
 世小是と三笑といふ惠遠始め俗より時獵と好て常小山野ハ
 遊び或日鶴の雛ととも親鶴甚悲しとて遂小死ふり則これ
 と得て腹と刻々ハ腸ぞくハ断つとてとて立処小喜提心
 成起し其弓矢と折捨法師とぬりて所謂佛種の縁より
 生ずると幸ふ今地蔵井の願願ハ乗て喜提の岸ふりてん

の豈悦りかぶや夫とをわめゆる

若知此願二世所求悉不成者不取正覺

是文の前の續あり結の詞なり。若知此願等の衆生地蔵井の大願のつとを聞つて現世後世と祈らん小願不隨く毎く成就せんとせり。現世後世との二世と願ひ求む所を成就せんとす人の正覺のそびとのうへり。正覺といふは梵語小三菩提ある正覺といふ此義釈ありども長々其畧は此意のたのめる衆生の二世の願とあり人の我佛果とえり。悲願と聞かざり。結縁とて人の室のゆへ入る牛と虚すふらり。

爾時佛讚延命菩薩善哉善哉真善男子我滅度後未來惡世罪苦衆生附屬於汝今世後世善能引導彈之頃不墮惡趣况墮無間阿鼻地獄

此段の世尊滅後の衆生と地蔵井小舟囑しるを説く。此の讚といふは訓を善哉々々といふ智度論云々。此の是と云ふ喜の甚なり。真善男子といふ上の文小真善井といふこと。地蔵井とていふは詞なり。滅度といふ涅槃論小

つり涅槃と荼ら無為と減度と翻釈すとの大なる患か
 く滅して四流とく渡ると云なり。未末惡世等と五燭惡世の
 罪らく苦く多れ衆生なり。附囑とらげあつくと訓是佛
 滅後より弥勒の出せまぐ二佛中間の衆生とらく解脱
 め長諸の苦と離して佛の授記ふあつとらく。彈指とら九
 ろとけする間とらく。惡趣餓鬼畜生なぐび小地獄とら。無間
 阿鼻とら阿鼻とら入梵語あくあふ無間と翻す。無間の名美
 の取の註のどし。無間地獄落業因とら五逆罪とら以て地獄落
 延命菩薩而白佛言世尊不慮我當拔濟六

道衆生若有重苦我代受苦若不爾者不取正
 覺

此段ハ井一切衆生の苦ハ代んと誓ふ人と説くふなり。上の文ハ取
 正覺すら如し。不慮とい念はぐひ氣づひ等の意なり又ら
 かりひららざれども又らわらざれど訓是若重苦とらふら不
 取正覺すとの意ハ地獄衆生の苦ハかへせらるるの義なり。
 昔筑後の国ハ天來の尼と大罪あふよらく空却の間大地獄
 小落べと身の地獄井と信ずるの其業と滅一現在の惡瘡ハか
 りらせらるる靈驗記すふとら猶古今ハ此井の靈驗御利益

也表經中川美

北野宗言

ホレ杖拳すべし此書ゆゑに記し置の

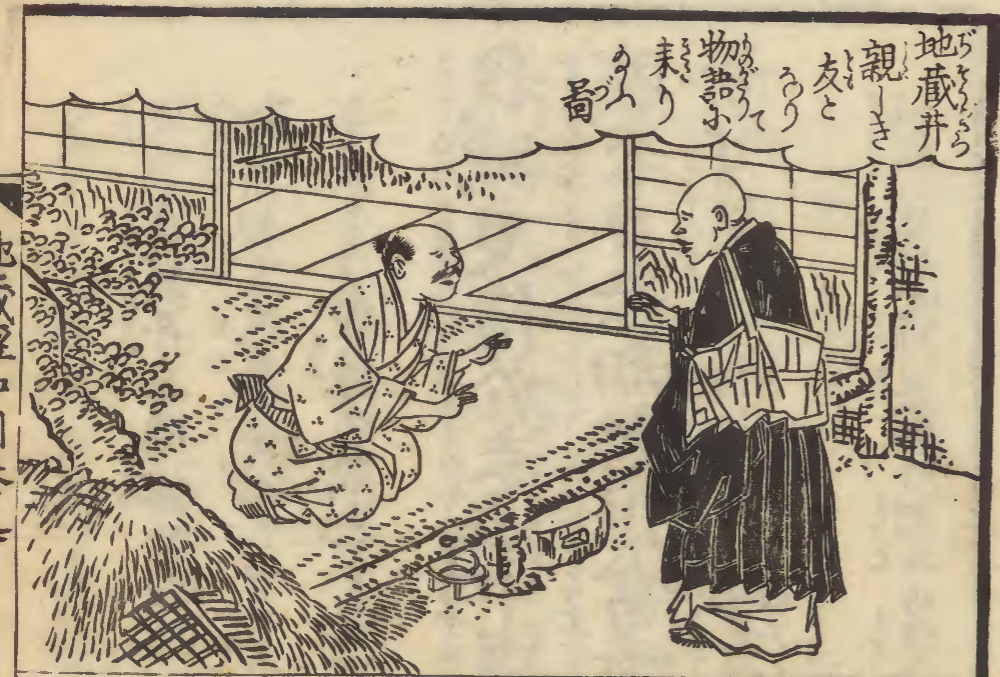
時世尊重以偈讚曰

偈とい梵より伽陀といひあふ詠誦と云即ち讚嘆の事なり

善哉善哉 延命菩薩 有情親友 衆生時

為其身命 滅為導師 衆生不知 短命無福

有情親友といふ衆生の親しき友ともなりまはるに抄石集ふかぬ
らゝの濱ふ古れ地蔵堂りゝゝ丈六の地蔵と安置すとの傍の浦
人常ふ詣りゝゝ或日若僧のまりゝゝ物語りゝゝ我らび人



ふらゝゝ外へてまゝりゝゝ
名残りゝゝを物ひあふぬとのこ
まゝあり入の夢さぬぬあ思
ひゝ母のどく地蔵堂ふ詣りゝ
堂至貧まふ此堂とらりつじ
らゝゝ是有情の友となりゝ
為其身命といふ父母の養といふ
あて父母の子ふおけり其身をかり
その身と分りて其命と養ふと
地蔵井の一切衆生の大悲母と成

地蔵堂中別巻

北齊書卷之六

人々々々滅為導師とん死出の險坂小苦之又華頭の河辺
迷つ時此并小微縁としつべしとの必に引導ありて衆生不
知といかゝ大悲悲父とあり又ハ引導の師通とありふよもあら
ばよふ無縁の衆生とありと短命無徳の身とならとあり

我滅度後於末法中國土災起人王政乱他方
賊來刀兵劫起但當憶想延命菩薩今世後
世所求不滿我所說法無有是處

此段ハ并小歸依其國土の災人とやめあらんとのことと説りて我滅度

後於末法中國土災起といふ國土ハ災難起り天下政違乱すは
他の國より群賊責來るる賊といふ人々のことらふめは左傳ハ
わく人と殺して忌むると賊と又則と中つるを賊といふ是こ刀
兵劫といふ立也阿毗曇論ハ曰住却の中人壽十歳の時刀兵劫起る
其時人三毒邪見日々盛ちて他人ハ云ふ及て親子兄弟并眷屬
たがひ小鬪諍と起り日夜ハ殺害せると無量なり是業力の所
感なりが四方の諸國に相乱戦死する夏修羅の如く草木も変
じて刀杖とぬる衆生相見るとむらさきをれ迹うる閻浮提の内
生残る者中より一万人なり是ハ宿善のたつ所なり此故に兵
乱やとて天地草木も色と替衆生も漸く多くなり壽命も又増

地藏經和判卷之六

世

長ずと是任却の其身二却ふわらう災々り身一却の疫病却起
 りて衆生疫癘や死とて又身三却ふ餓饑却り此と死
 群靈餓死ふや疫病飢饉の兩却ふ死す人又寿命の増長す
 ると刀兵却ふ説が如し是と小の三交と号く今是ふ刀兵却の
 ことと死と疫癘飢饉も兼合今や地藏并と念ずればか
 悪世ふしめんやたと宿業少く刀兵却のと死生と共此并
 と念ぜの其難とのづどしつふ況や常時の兵乱とや中古江州
 愛智郡加野村ふ古寺あり其本尊地藏尊ふ草創とる
 小檢非違使平の師道の祖是と建立せり然るふ師道武勇と
 業く弓馬と宗とい時と世上静かれば師道不圖敵のふ

小襲の死生も忘まて終日
 戦々師道負軍とめつ
 主従六七騎ふ打なれ沼とへ
 ごとく命限り矢ととめては
 つり引つる射をふ既ふ射に
 矢種も終るが最早是まで
 かりと主従自害ときらしむ処
 へ一人小法師楯の影より走り
 出矢とひらひ師道ふ射
 させらふ其矢一手もあらず



地蔵經和州卷下

爾時三千大千世界六變震動

バ猛將と射落し敵とありども師道不思議おのひは佛の感應なりんと彼古寺の地藏井へ参詣して即戸と開きえまが不思議や申後ハ矢一筋射月れりりと実験記ありしう即ち他方の賊も犯す復あつらば刀兵の難きものづらりつらびや憶想とありひひめと訓とこれ地藏井と心中祈念するところ今世後世以下の文ハ世尊地藏井と證據してのりり若地藏井と頼り奉らると二世の諸願満足せば今我ところの法ハ截論とつらびは是決し妄語ありつらびと説くべし

此義と智度論依く曰く千の須弥山千の日月千の四天下及び梵王是と小千と中千と合ると中千と号中千と千で大千と号く以て三千とがけ小と中と大ふたつと大千とつと云り六變震動といふ取注す

而白佛言
文殊師利菩薩普賢菩薩金剛藏菩薩虚空
截菩薩聖觀自在菩薩摩訶薩等異口同音

文殊師利と梵語少く此ハ妙徳と翻ず此菩薩不可思

議種々微妙の功德と具す。ゆへに名づく。とす。普賢菩薩との
あまのくかじと訓と徳法界の普と普と入至順ありて善と
調つと賢と入金剛蔵井と入金剛と入其幹堅固ありて不壞
の美なり。此井の智慧と又あまの煩悩魔王も動す。ことりて
久しく能諸の障と破り人の疑心と断り。故に号なり。又衆
盡の功德と具足す。故に蔵と入なり。虚空蔵菩薩との福知の
能化なり。とす。又如来の神力と知る。ゆへに虚空の中におわて
衆生の求むる所を隨ひて諸施し。ゆへに財施とく。能施し
供へ。皆歡喜せしむ。善男子。此大士の方便智と證す。故に虚
空蔵と名づく。聖觀自在菩薩との觀世音菩薩なり。摩訶

薩等と入其外大菩薩連と入其數恒沙なり。等取せり。異口
同音と入口とよめて音と同一とすと訓と

世尊未來衆生若聞此經是菩薩名我等皆
當隨順是人作心眼明現其人前所求圖滿若
不雨者不取正覺

是文へ前の續あり。結の詞なり。文の意は。此經并地藏并の
名号と耳を觸或は一念淨信と起す者。あまの上来所説の諸并
等其人ふ付をゆへに彼所現前して心眼の光明と名づく。願

地持を承言者之

い求る所可入んと若くあふ正等菩提と取證りしとぬり

雨時梵天帝釋四天王雨諸天華供養如來

白佛言

此段の梵天帝釈四天王地蔵并歸依すとの守護しと安
穩なりゆんと誓願と立ちて説くゆなり。梵天帝釈と取の
註の如し四天王とは是須弥の四州と司とせり天王なり。乳
雀經に東方に持国天南方に增長天西方に廣目天北方に毗舍
門天是と四天王といふ雨諸天華といふ知度論に諸天水中陸地
よ咲所の色香妙なる花と以供養の具といふと云佛塔に花香

并燈明と供養すふ業報差別經に十種の功德と説く又云若
花ひくるとありは諸佛きまつて座しあり此故に下界の中の花と
ほて淨土とすといへて依り清淨の天人なるも佛と供養しつとを
くのぶし説や我輩とや如來といふ秘藏に云成佛の後悲願力
の由り化るとれ真如ふ衆とて来りゆあり如來といふ
世尊未來衆生若自心正不枉是非不捨賞罰
持是經者念此菩薩

此文の意に未來の衆生心と正まりし是非と順路ふとれ賞罰
恒敷ありふ而此經とよく此并と念ずるものゆへとぬり

地持を承言者之



我等眷属擁護是人不
 離日夜令其國土百由旬
 内無諸灾難其國民令
 安穩穀稼成熟所求滿
 足若不雨者不名護世
 不還本覺

取文とらけら 結く眷属とら帝
 釈の如との九十億那由陀の天女と

かむびふ千子あり及び無量の諸臣有くその眷属とら又一切
 の山河樹木土地城郭一切鬼の皆四天王の眷属とら百由旬とら取ふ
 注す安穩とらゆすくもやうぬりと訓と身心ゆすらぬことより穀稼
 とら穀の五穀かり稼の五穀と植とら地蔵井ふ帰依只の国土とら
 うふ諸の災難なく人民安樂ゆと五穀成就し求しる所満足せん
 護世とら世と守ると訓と諸天の意ハ我世の有情と守護するのふ
 護世四王の号とら今地藏井と信する者と守り何と護世と号や不還
 本覺とら是井と帰依の人と守護せんが本覺真如都ふ帰との誓言と

時二童子侍立左右一名掌善在左白色持白

蓮華調御法性一名掌惡在右赤色持金剛
并降伏無明

此段の地蔵井の脇侍掌善掌惡二童子と説くは侍立左
右との地蔵井の左右ふちをひ立ち侍とのとをわたりて
ぶくも訓は掌善の善と掌と訓は是善性と標示するを名
とハ白色持白蓮華とハ其形色白じて手ハ白蓮華と以て
清めて淤泥の汚穢をれずとの相和して三毒の垢を
とめて自性清浄なると表す調御法性との同射の法性と調
むむむ一名掌惡との惡と掌と訓は無明煩悩の邪惡と司

りむむむと以て名とハ赤色とハ其形色赤くありて南方
の火の色と灼々々々光へく無明の闇とて熾然となげこ
ハ忽煩悩の薪と燒標示する。金剛杵との杵ハき棒と訓り即
独鈷杵なる。金剛との堅利なりての爲に壞れずなりて
物と摧くごとく實智の十惡八邪諸魔外道ハ轉びれずと摧
破するふたと降伏無明とのいづれ一葉金剛の實智能無始の無
明と降伏するをり

佛告大衆汝等當知是二童子法性無明兩
手兩足延命菩薩中心不動阿字本體

世載三石

是取の文の續なり當知との勸知の辞なり。掌童子との掌善童子
 子の法性と司との延命井の九の手九の足の如く。掌善童子ハ無明
 と司との同く井の右の手右の足の如く。不動尊ハおのてハ掌善
 珍迦羅那ハ掌善ハ制多迦ナリ中心不動といつて中心の中位の
 義ナリ不動といハ心淨菩薩の心ナリといハ所謂大聖不動明王也
 即ち地蔵井と一体不二ナリ此義就てしつて説かれ。畧之砂石
 集ふつて山門慧心の僧都の妹安養の尼絶入の時修学院の僧
 正勝算火畏の咒と誦僧都地蔵の宝号ととあへて初念せし
 ころ不動火火のまへおのて手とひくく歸らせしとて蘇
 生しつと云阿字本體といハ不空の菩提心論ハ夫阿字ハ一切諸法

本不生の義なりと取謂大日如来一字の真言なり然も此阿字
 本不生の理と悟と大日如来一名づく大日經にも我本不生とこと
 ると説く今此地蔵井も則ち不生不滅の本體なり若此理
 小達ナハ修作とくべして生死の縛と動くべして解脱の床
 みのや即ち即ち真の深旨即身成佛の妙道と此阿字ハ歸
 すのこ此脚經の秘要といふなり

余業ずる地蔵本願經のこ此經ハ菩薩の陀羅尼と説
 うるが中心不動阿字本體なりといふを以て既ハ亮汰
 も頭の中の秘ハ則ち雜部の密蔵なりといふ然も世ハ專
 地蔵井の咒ととつて是ハ本願經ハ所ハく井普通

の陀羅尼なり余下凡と觀ず因に依りて有り尤の呪と解説
すく尚委し密師の掲して印契ホの式に授く

地蔵王菩薩陀羅尼

唵訶訶訶尾娑摩曳娑嚩賀

唵と者供養の義あり僅ふ此字と唱へ時一切の香花燈明飲食
衣服等も此字より流出く十方無遍の佛并の供養するも更
不足なり。訶訶訶と者三因の義あり近くは貪瞋癡の三
悉く本不生際に入らるるの義あり。尾娑摩曳と希有の義あり
一切有情の我相種々煩惱あり僅ふ此呪と修んば我相即ち除

くと希有とすの義あり。娑嚩賀と真言の義あり此菩薩
の呪と唱へし時の自然と阿字本不生と悟達するの儀と含めり
又三毒若本不生入らば大貪大瞋大癡となる是奇中の奇
怪なる奇哉々々といふ意あり則三毒の因空は是果徳なり
故ふ本不生入らば則因業即果徳といふ儀といふと夫陀羅
尼の摠持なり又呪といふは呪の字書の中ふ願也と往して願
義なり謂其理と知ばと雖も悪と變じて善と成り凡夫と
轉じて賢聖ふ叶はんと願く陀羅尼と誦すれば其功徳を得と
世に螺贏と云く腰の細く蜂あり此蜂青虫といふ虫と取て巢
の中に入ると己が子と成り呪願すれば即ち己が子と成るべし

是と似我蜂と入世間有為の裏をす... 况や井の
兪願とや其功德不量ありて不可思議なり

若有衆生知是心者決定成就即滅三毒得自
在力願生佛土隨願得生

此段の井の御心ふるありの神通力と得て浄土に往生す
とことと説く入るなり。知是心者は本不生の心と知るといふあり
決定成就といふ煩悩悉地と成就す。三毒といふ貪欲瞋恚愚痴と
三毒といふ通して毒と名変法界次第に毒の鳩毒といふ義とい
夫鳩といふ毒の甚敷鳥なり尤傳の註より此鳥の羽を取



信と偽と
地蔵井の
拜する音

く酒ふい... 呑とれ死すとの
三毒の煩悩一切出世の善心と
なま... 損め入ふと... 得自
在力といふ衆生の自在と得ぬ
惑業苦ふ繫縛... 故に今
や三毒消滅す業道なきと生
ん業道と離る故苦もな
是色身三昧と得即解脫なり
といふ願生佛土等といふ浄土往生
と縁が... の願成就す

いづの二十五井の敷入く臨終の夕ふ九品の蓮臺の引扱りふ

若未來世一切衆生恭敬供養延命菩薩不生疑惑現世所求皆令満足後生淨土得无生忍

此段の地蔵井と供養する者の二世の願と成就すと度と説くは茶敬供養といふ註する如し。不生疑惑といふはまこと勿となく昔物ごとと思ふ信ずる凡あり然るふ毎日晨朝地蔵井の通りの人と偽言く軍する者ありはば少も是と疑は信とと朝く門ふ出く地蔵井の通りの人と拜くたとて詠り居るる然るふ月日と重るるがま直信の感ずる処りやとてして

不思議なるを生身の地蔵井と拜くこと靈驗記小出り斯く裏なく信ずるあいうね願う成じらんや涅槃經小曰阿耨菩提の信心と因といと説くは。無生忍といふ無生の不生不滅の法なり此法ふ安住し不退なるを忍心と云但し忍心の二ツあり先生の法と得り初と忍心と云後と知とり入多鹿かると忍心と入細々と智とり入智度論西方往生の人ふ約り上輩の得る処なりといへり然りとすも只信心のあふふ地蔵井の引導ふ任ま

佛説此經已一切大會心大歡喜信受奉行

此段の流通今やと最の正宗今の印教の惣括なり。佛説

此經和言卷之

此經といふ佛此經と説く人といふを經家阿難の詞なり一切大會と
菩薩乃至天龍八部等皆此會座小集る衆といふ心大喜と
て既小未曾有の法とききて現當自他の得益あることを面お悦び
の見るかと歡といふ悦と喜といふなり。信受奉行といふ佛の説と
まゝに勉有思ひ信受持なり千經萬論唯信受と貴と
より能決しと信受すは解脱を得利益と獲是といふ經
の流通より如斯結するふ信受奉行といふくす更かり尊む
る信ずかき

延命地藏經和訓圖會卷之下畢

洛 東陽堂男
池田東園書

嘉永七年甲寅五月

備後町三丁目

作者 大和屋太助

大阪書肆

高麗橋一百

藤屋善七

大坂書院

藏書

古書

出書大坂書院

前編

書院

